

# 令和七年度 国語試験問題 (第一期)

一次の文章を読んで、以下の問題に答えなさい。(解答はすべて解答用紙に記入すること)

(前略) 日常生活への復調の①シヨウチヨウが食生活で測れるとすれば、仕方なしの二食制だ。仕事はただ半分ほどしか②キドウにのせていないが、③ネる時間がおそくなり、くたびれてくると、それにつれて④□がおそくなる。いくら頑張っても朝食と昼食が④ケンヨウになった昼食になる。⑦この昼食が「うどん」ということで決まれば、完全な⑥□□の恢復を意味している。①ちよつと言いたいことをいってみたくなつたが、わたしたちが、社会のなかで⑤無事平穩だということを⑤ホシヨウしているのは、食事(と、もしかすると衣裳)の日常性だという気がする。⑥そんなところから言えば、⑥わたしの二食制はすでに平穩からの逸脱の兆候だといえなくはない。もうひとつの逸脱の⑥兆候は、レストラン、簡易食堂、小料理屋での食事がおおくなつたことだ。もつと⑦ハナイをひろげて駅の立喰いカウンターの「そば・うどん」や「カレーライス」を利用して⑧スマすことなども、⑨キカイがおおくなつた。わたしだけでなく⑩一般的にそんな気がする。⑩日常生活という概念は、非日常生活という概念とのあいだの区別や境界をなくしてゆくのおなじに、日常の食事生活と⑩非日常の食事生活とが区別と境界をなくしてゆく。ちやんとした日常生活のおかず、⑦「里芋」の煮ころがしとか「ホウレン草の白あえ」とか「①」とか「煮まめ」とかがパックにつめて販られるようになったかとおもうと、「①」や「ハムサンド」や「カツサンド」がコーヒーや⑩コウチャといっしょに、日常の食事として生活のなかに滲透している。

(出典『ある日の食事日記(抄)』吉本隆明)

(1) 文中の傍線部①～⑩の漢字はひらがなに、カタカナは漢字にかえなさい。

(2) 文中の□⑦、□①、□②のそれぞれに入る語を次から選んで、番号で答えなさい。  
「① たとえば ② そして ③ ただ」

(3) 文中の④□□に当てはまる漢字一字、⑥□□□に当てはまる漢字三文字を、それぞれ文中からさがし書き抜きなさい。

(4) 文中の◎無事平穩の意味を書きなさい。また、知っている4文字の故事成語を一つ書きなさい。(

(5) 文中に◎そんなところとあるが、それを指し示す内容が書いてある箇所をさがし、初めの5文字と終わりの5文字を書き抜きなさい。(句読点を含む)

(6) 文中に◎わたしの二食制はすでに平穩からの逸脱の兆候だといえなくはない。とあるが、その理由を文中の言葉を使って答えなさい。

(7) 文中に◎一般とあるが、「一般」という語と反対の意味の二字熟語を答えなさい。

(8) 文中に◎日常生活という概念は、非日常生活という概念のあいだの区別や境界線をなくしてゆくとあるが、そうになると、日常生活はどうなっていくのか、考えて答えなさい。

(9) 文中に◎非日常の食事生活とあるが、非日常生活のおかずの特徴を問題文中から10字前後で書き抜きなさい。

(10) 文中の「①」と「①」に入る語を次から選んで、番号で答えなさい。  
「① トマト ② 肉じゃが ③ 野菜サンド」

(11) 問題文を参考に「日常生活」と「非日常生活」という語を使って、百字程度で作文しなさい。

二次の文学作品の作者を選択肢のA～オの中から選んで答えなさい。

(1) 「走れメロス」 (2) 「生きる」 (3) 「やまなし」 (4) 「月夜の浜辺」 (5) 「故郷」  
「A 魯迅 イ 太宰治 ウ 谷川俊太郎 エ 宮沢賢治 オ 中原中也」